

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2017-3002-2	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	TMM地域住民コホート調査参加者のうち、いわて東北メディカル・メガバンク機構で実施された地域住民コホート調査にリクルートされたサテライト受診者約5000人の性別、年齢、特定健診情報、調査票情報、生理機能検査情報、検体検査情報、追跡情報	
主たる研究機関	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	いわて東北メディカル・メガバンク機構(IMM)・地域住民コホート詳細三次調査での血漿中キサンチン酸化還元酵素(XOR)活性の測定とコホートデータとの関連について			研究期間	承認日～2029年3月31日	
実施責任者	事崎 由佳	所属	いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門/ 衛生学公衆衛生学講座		職位	講師
研究目的と意義	いわて東北メディカル・メガバンク機構(IMM)における地域住民コホート調査参加者のコホート情報、追跡情報を用いて、血漿中XOR活性の経時的変化を追跡し、その変動と心血管疾患リスクとの関連を検討する。XOR活性の経時的変化を明らかにすることで、震災後の生体指標の動態を解明し、心血管疾患リスク評価の高度化と長期的な健康管理・予防戦略の構築への貢献が期待される。					
研究計画概要	IMMにおけるベースライン調査では、岩手県に居住する20歳以上の住民をリクルートし、2013年7月～2016年3月まで実施され、3万人以上の対象者を含む断面解析の結果、以下の3点が明らかとなっている。 ・身体活動量、喫煙、飲酒、及び震災時の自宅被害の程度は、メタボリック症候群と有意に関連していた。 ・内陸部に対して沿岸部では、心理的苦痛、抑うつ症状、不眠、及びPTSR(心的外傷後ストレス反応)のオッズ比が高かった。 ・沿岸部では、東日本大震災と高血圧等の治療中断が関連していた。 また、IMM詳細二次調査で収集している血漿中XOR活性とコホートデータとの関連を検討した結果、血漿中XOR活性と心血管疾患リスクとの関連や、動脈硬化指標との関連が明らかとなった。 そこで、本研究では、IMM詳細二次調査におけるサテライト受診者約5000人を対象に、詳細三次調査において血漿中XOR活性を測定し、詳細二次調査からの変動との関係を詳細に評価する。					
期待される成果	本研究では、計画期間の延長により長期縦断データを構築し、血漿中XOR活性の経年変化とその規定要因を明らかにする。これにより、XOR活性の長期的変動特性に関する基礎的知見を創出し、心血管疾患リスク評価に資する新たな生体指標としての有用性を提示する。					
これまでの倫理 審査等の経過	【承認番号】HG2021-011 【研究課題名】いわて東北メディカル・メガバンク地域住民コホート詳細三次調査 【研究期間】2021年3月31日					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	本研究で用いる情報は、匿名化した上で、高度なセキュリティと厳正なアクセス管理が担保されたコンピュータ内に限定して管理する。また、分譲された情報は、いわて東北メディカル・メガバンク機構のセキュリティポリシーに沿ってネットワークから切り離されたスタンドアローンの環境でのみ解析する。					
その他特記事項						
(事務局使用欄)	*公開日 2026年3月27日					